

# 文化財ニュース No. 30

発行 加古川市教育委員会

編集 社会教育・文化財課（加古川市加古川町北在家23-1 TEL (24)-1151）



## 中世の火葬墓を発掘

### 辻中世墓

「辻中世墓」は西神吉町辻町内会の北はずれにあります。この遺跡は、県道改良工事中に偶然発見されたもので、昭和61年11月17日から12月13日まで発掘調査を実施した結果、中世（鎌倉～室町時代）の火葬墓跡であることが明らかになりました。

墓は法華山谷川に面した丘陵の斜面を階段状に掘削整形した平地にそれぞれつくられていました。墓地の北側にはカギ形に曲がった溝があり、墓の範囲を区切るために掘られたものと思われます。

墓は石組みで長方形につくられたもので、4基以上検出しました。石組みの中や上面には火葬骨を入れた蔵骨器が納められており、その多くは板石で蓋がされていました。蔵骨器は1基の石組みに少くとも2個、多いものでは14個以上も納めてありました。

また、石組みの周辺には五輪塔が散在しており、おそらくは墓の上に建てられていたと思われます。

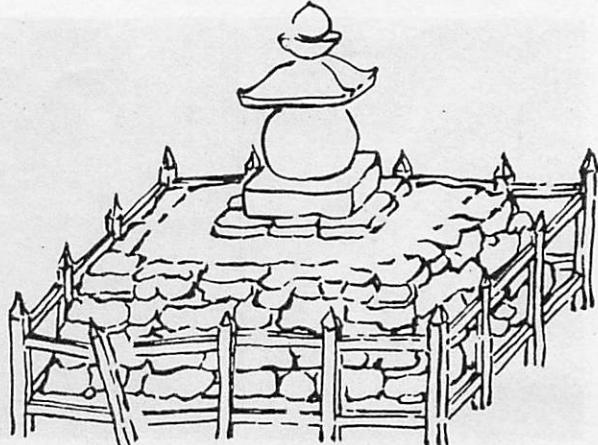
蔵骨器は壺や羽釜、鍋など日常用の容器が利用されていました。内部には火葬骨がぎっしり詰まっているものがありました。その他は何も認められませんでした。壺には14～15世紀頃の備前焼と思われるものが

あり、墓が造られたのもこの頃であると思われます。

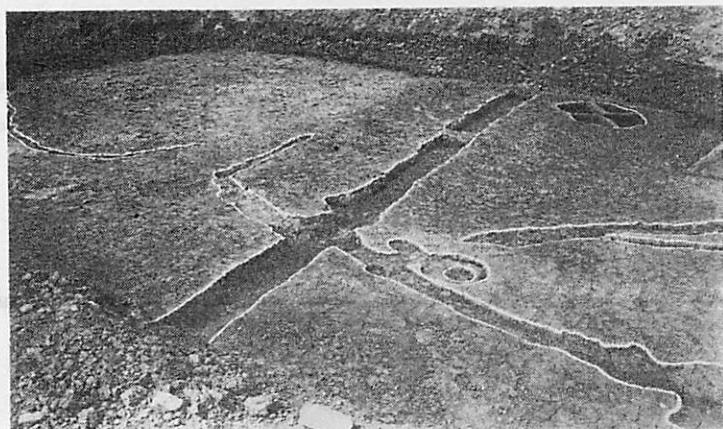
火葬は、墓周辺で行われたらしく、墓地内や、墓地から10mほど離れたところでは、火葬址と考えられる炭や灰の詰まった浅い素掘りの穴が検出されています。

以上のように、「辻中世墓」では五輪塔を墓の上に建てた石組みの火葬墓が検出されました。墓はいずれも整った立派なつくりをしていることから、この地方の有力者一族の墓であると考えられます。

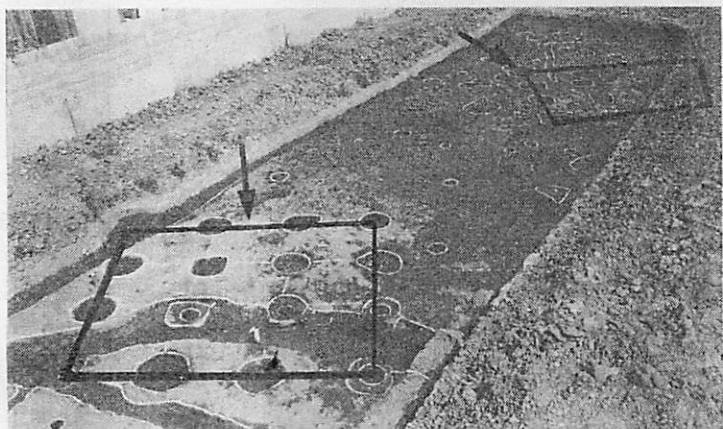
（兵庫県教育委員会・藤田 淳）



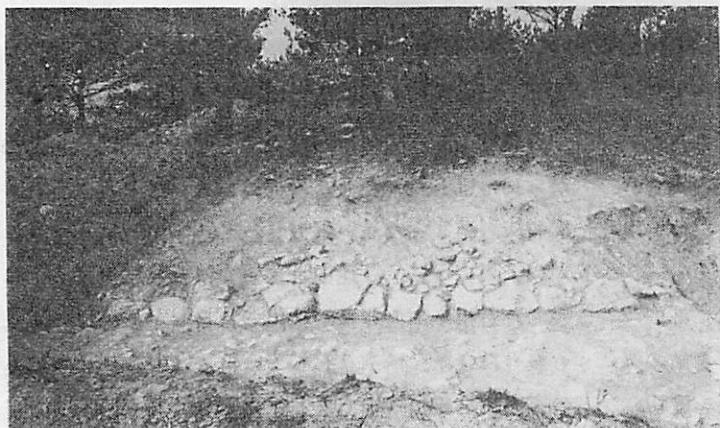
『餓鬼草紙』に描かれた中世の墓の様子



1. 砂部遺跡の溝と土壙



2. 溝之口遺跡の奈良時代掘立柱建物 (矢印)



3. 八ツ塚古墳群の2号墳石列



4. 塚山古墳の横穴式石室 (玄室)

### 1. 砂部遺跡の発掘調査

砂部遺跡は弥生～古墳時代の遺跡で、東神吉町砂部と神吉の中間にあります。今までに行なった発掘調査から、倉庫跡・溝・弥生土器を焼いた穴などが発見されています。今回の調査でも、東西に幾筋もの溝(写真)と土壤が確認されました。その中より出土した土器から、弥生時代前期(2200年前)の遺構であるのがわかりました。

### 2. 溝之口遺跡の発掘調査

溝之口遺跡は加古川バイパス工事中に発見され、以後発掘調査が行なわれた結果、弥生時代前期～奈良・平安時代の大きな集落跡であるのがわかつてきました。昭和61年7～8月に実施した調査からも、弥生時代の溝・古墳時代の竪穴住居・奈良時代の掘立柱建物(写真)が3棟発見されました。この建物配置から、豪族の館跡ではないかと考えられます。

### 3. 八ツ塚古墳群の発掘調査

この古墳群は上荘町見土呂果樹園内にあり、5基の古墳が築造されています。今回の調査は、古墳の形状・規模を確認するためです。八ツ塚古墳群の内容は円墳4基と長方形墳1基で、とくに長方形墳であることや円墳の周囲に石列(写真)をめぐらすなど古墳時代以前の墳墓ではないかと考えられます。また、一つの墳丘に小横穴式石室を2基造っているのもありました。

### 4. 塚山古墳の発掘調査

塚山古墳は、志方町投松の東、畠谷池北側の山頂にあります。古墳は直径16mの円墳で、主体部は方袖の横穴式石室(写真)です。石室は岩盤を掘窪め、この穴にそって石を積み上げ室にしています。出土した須恵器から、古墳時代後期(6世紀後半)に築造されたことが判明しました。また、飛鳥時代(7世紀初)にも埋葬施設として使われました。

## 加古川市内の指定文化財

国指定文化財 &lt;2&gt;

1. 天蓋

(鶴林寺・重要文化財)

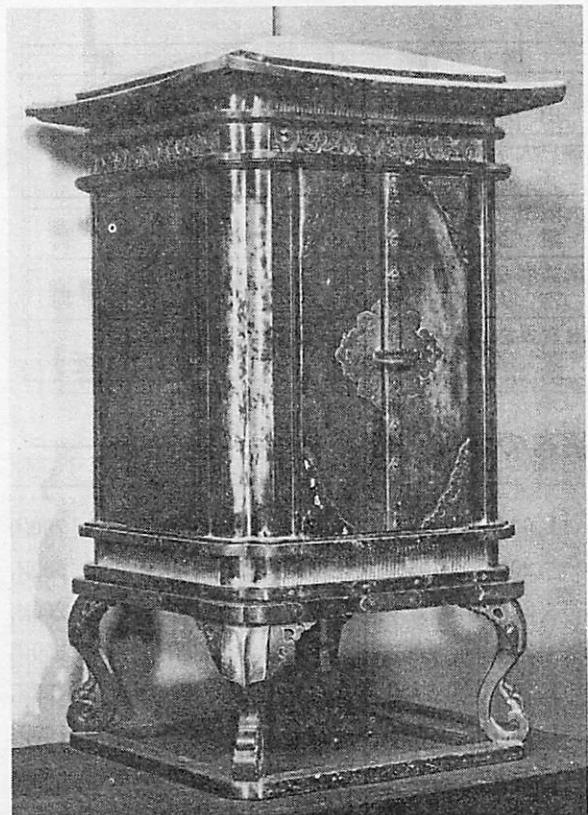


木造 径 85.7cm

太子堂の本尊である釈迦三尊像の仮天蓋で、須弥壇の格天井から吊り下げられていた。桧材を用いた寄木造で、金箔を押し、八葉の蓮華を中心に唐草文、連珠文、宝相華唐草文を浮き彫りにして、全体の形も八葉の蓮の花が開いた姿を形作っている。瓔珞が失われているのは残念であるが、宝物館に収蔵されている。

2. 株漆厨子

(鶴林寺・重要文化財)



木造 高さ 160cm

全体としては黒漆塗りであるが、軒天井裏、花足の木爪部などは朱塗りの春日型の厨子である。屋根裏に「永享8年丙辰正月12日、鉢始之」と墨色銘があり1436年室町時代中期の作品である。

植髪の太子像と伝承される童形の聖徳太子像を奉安し、太子堂に安置されていた。

3. 弥陀三尊画像

(鶴林寺・重要文化財)



絹本着色 縦 130.01cm 横 73.3cm

蓮華台座上に結跏趺坐する阿弥陀如来を中心とし、蓮座上に立姿の観音・勢至菩薩を脇侍とする画像で、寺伝では高麗無双筆とされている。平安時代末期から鎌倉時代に相当する高麗時代は、中国の宋画の影響を大きく受けている。

観音菩薩が正面を、勢至菩薩が斜め内側を向く姿態であることは、三尊像としては他に類をみない特異な構図である。  
『加古川市の文化財』より

## 郷土資料館が閉館しました

昭和50年12月に開館以来、資料の収集と整理・展示につとめてきました郷土資料館は、昭和60年11月3日に閉館しました加古川総合文化センター博物館にその機能を移し、昭和61年3月末日をもって閉館いたしました。

新しい博物館は常設展示面積約700m<sup>2</sup>に加えて特別

展示室、収蔵庫、研究室、作業室、体験学習室などを有する本格的な施設で、実物と模型を組み合せた効果的な展示を行っています。

入館料 大人 200円 小人 100円

休館日 月曜日



(博物館の常設展示室)

### 【文化財講座の開講】

毎年秋に開催している文化財講座は、別表のとおり開催し、毎回90名近い方が熱心に聴講されました。

ご希望をできるだけ反映した魅力ある講座を新年度も開催する予定にしています。

期 日	講 師	演 題
10月19日	神戸女子大学 田中久夫氏	播磨の法道仙人
10月26日	神戸大学 多淵敏樹氏	兵庫県の民家
11月16日	大阪市立大学 服部昌之氏	古代播磨の条里制
11月30日	東播磨高等学校 吉田亨盛氏	鶴林寺太子堂の壁画
12月7日	滋賀県教育委員会 兼康保明氏	織田信長の延暦寺 焼打ちを疑う

### 文化財調査報告書頒布のお知らせ

市内各所で実施された発掘調査の結果をまとめた報告書をはじめ、次のとおり図書を頒布していますので、ご希望の向きは社会教育・文化財課（市役所5階）までお立ち寄りください。

文化財調査報告書 中 山	1,000円	文化財調査報告書 西条廃寺	700円
" 岸	200円	埋蔵文化財調査集報 1	500円
" 広尾東	500円	民俗資料調査報告書	1,200円
" 山之上	200円	加古川市誌第2巻（別府町）	5,000円
" 砂 部	1,500円	文化財めぐり	400円
" 東 中	1,200円	加古川の昔と今	700円
" カンス塚	200円	写真で訪ねる鹿児の石造遺物	1,500円